

氏名	相良翔	部署	社会福祉子ども学科	職名	准教授
研究分野	福祉社会学、犯罪社会学、医療社会学、司法福祉論				
学位	博士（社会学）				
学歴	2011年3月 上智大学大学院総合人間科学研究科 社会学専攻 博士前期課程 修了 2018年7月 中央大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程 修了				
経歴	2011年4月～2014年3月 更生保護施設 補導員				
所属学会（役職）	ヨーロッパ犯罪学会, 日本社会学会, 日本犯罪社会学会, 福祉社会学会, 日本社会病理学会, 日本保健医療社会学会, 関東社会学会, 日本ソーシャルワーク学会				

【2024年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作(著書及びその他の著作物)						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	社会福祉士国家試験過去問解説集2025: 第34回-第36回完全解説+第32回-第33回問題&解答	共著	あり	中央法規出版、602	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	2024年5月
2	犯罪へ至る道、離れる道—非行少年の人生（翻訳書）	共著	あり	ちとせプレス、336	ロバート・J. サンプソン, ジョン・H. ラウブ 著/相良翔・大江将貴・吉間慎一郎・向井智哉 訳	2025年3月
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	『同じ経験』と『違う経験』の狭間に臨むピア・サポーター—更生保護施設および併存性障害者支援施設をフィールドとして	単著	なし		現代社会学理論研究、18、31-43	相良翔
2	A path to tertiary desistance: A qualitative metasynthesis	共著	あり	○	Punishment & Society、online	Masahiro Suzuki, Sho Sagara, Nozomi Yamawaki, Noriko Hashiba
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	ある併存性障害者支援事業所における生活経験—併存性障害のある人のアジール？	単独		第22回福祉社会学会大会、東京	○相良翔	2024年6月
2	併存性障害を有する者を受け入れるNPO法人Xの重要性—インタビュー調査の経過報告を踏まえた精神保健福祉学的考察	共同		2024年度アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会、東京	○青木彩香、相良翔	2024年9月
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究			更生保護施設に勤める支援専門職の役割形成の要因およびプロセスに関する質的研究	研究代表者	2020年4月～2025年3月
2	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究C			更生保護分野における民間による就労支援実践に関する質的研究	研究代表者	2023年4月～2026年3月

3	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究C	「刑務所の中のソーシャルワーク」の実践・倫理・教育に関する実証的・比較法的研究	研究分担者	2023年4月～2026年3月
4	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究B	ダルクにおける就労支援の位置づけと実践的方法論の複合的包括的なマイクロ社会学研究	研究分担者	2023年4月～2027年3月
5	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究B	若年者の犯罪・非行からの離脱プロセス：デジスタンスを促す／妨げる社会的要因の探求	研究分担者	2023年4月～2027年3月

3. 教育業績

(1) 講義

	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	医療と福祉の社会学	○	15	医療と福祉社会学における基礎的な理論や概念について講義し、批判的に検討するための基礎的な能力を養成した。 オリジナルテキストも用意して、受講生が学習しやすい環境をつくることを心掛けた。 疑問や質問についても随時間き取り、講義に活かした。
2	社会福祉の原理と政策Ⅰ	○	15	社会福祉学における中核的な理論や概念について発展的な講義を行い、現代社会の福祉の課題について科学的に考察する能力を養成した。 オリジナルテキストも用意して、受講生が学習しやすい環境をつくることを心掛けた。 疑問や質問についてもリフレクションペーパーなどを通じて随時間き取り、講義に活かした。
3	司法福祉論	○	15	司法福祉に関する制度および理論・概念の基礎について講義し、現在の司法福祉について批判的に検討するための基礎的な能力を養成した。 オリジナルテキストと動画資料も用意して、受講生が学習しやすい環境をつくることを心掛けた。 疑問や質問についても随時間き取り、講義に活かした。
4	子ども若者支援論（大学院前期）		5	子ども若者支援に関する専門論文（非行・薬物依存）を基にディスカッションを行った。
5	社会的排除とソーシャルワーク（大学院後期）		4	日本の刑事司法制度に関する文献を基にディスカッションを行った。

(2) 演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ソーシャルワーク演習Ⅲ		15	グループワークに関する演習科目の担当者として関わった。 グループディスカッションやロールプレイに対して、適宜助言・指導を行った。
2	ソーシャルワーク演習Ⅳ	○	15	コミュニティアプローチに関する科目責任者として関わった。 学生のグループ活動が円滑になるように、適宜助言・指導を行った。
3	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		15	実習に必要な知識や技能の習得のため、授業準備や資料作成を行った。
4	社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ	○	各15	社会問題をテーマにした専門的な論文の輪読や社会調査に関する学習を進めた。
5	社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ	○	各15	卒業論文の準備に関する報告についてディスカッションを行った。

(3) 実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ソーシャルワーク実習Ⅰ		学外実習：2025年2月～3月	実習巡回訪問や帰校日等を通じて、実習での学びがより良いものになるように指導した。

2	IPW実習	○	学外実習：2024年8月～10月	地域担当教員として、それぞれのグループでのオンライン実習が円滑に進むように環境整備や助言を行った。		
(4) 論文指導						
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	卒業論文		2024年4月～2025年2月	主指導	5名	副指導 名
(5) その他						
	名称		期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	修士論文の副査		2025年2月			
4. 社会貢献活動						
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師						
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ		開催年月
1	該当なし					
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等						
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称		任期	
1	BLUECROSS MOVEMENT（非行少年の社会的自立支援のための運動）		実行委員		現在に至る	
2	日本犯罪社会学会		本部事務局会計部常任理事（18期）		現在に至る	
3	福祉社会学会		研究委員会委員		現在に至る	
4	青少年問題学会		編集委員会理事（2期）		現在に至る	
5	日本保健医療社会学会		編集委員会 査読委員		2025年3月まで	
(3) ジャーナリズムでの発言						
	メディア等の名称		内容			年月
1	該当なし					
(4) その他						
	項目		相手方等	内容		期間
1	該当なし					
5. 学内運営						
	項目		内容			期間
1	学科等における委員会等		4年次学年担当			2025年3月末まで
2	全学的委員会及びセンター業務等		高等教育開発センター所員			2025年3月末まで
3	全学的委員会及びセンター業務等		教務委員会			2025年3月末まで
4	全学的委員会及びセンター業務等		カリキュラム検討委員会			2025年3月末まで
5	全学的委員会及びセンター業務等		IPW実習科目責任者会			2025年3月末まで
6	全学的委員会及びセンター業務等		進路担当教員			2025年3月末まで
7	学科等における委員会等		社会福祉専攻会議 担当			2025年3月末まで
8	学科等における委員会等		カリキュラム検討委員会ワーキンググループ			2025年3月末まで
9	学科等における委員会等		卒業研究運営委員会			2025年3月末まで
10	学科等における委員会等		社会福祉子ども学科会議 担当			2025年3月末まで
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）						
	受賞名		主催		受賞年月	
1	該当なし					
7. 特許の取得						
	特許名		特許番号		登録年月	
1	該当なし					
8. 特記事項						
1	該当なし					